

福岡県京築地区の神楽舞台の研究

その1 神楽舞台の概要

正会員○井上英孝*¹ 同 河野泰治*² 同 柴田加奈子*³ 同 岡田知子*⁴

5. 建築計画—2. 各種建物・地域施設

神楽舞台、拝殿、神楽殿、神楽講、豊前岩戸神楽

はじめに 研究の目的と背景

福岡県の東部、北九州市と大分県にはさまれた京築地区(2市7町2村)には、神楽舞台が濃密に現存・分布していて、200棟以上にのぼるとみられている。

この地区では、人口流出が続いているが、中世以来の伝統をもつといわれる神楽「豊前岩戸神楽」が多く、その集落の神社境内で毎年奉納されている。

神楽は、舞人(神楽人)囃子方(笛、太鼓、銅拍子)で構成される「神楽講(神楽舞)」と見物人・世話人及び舞場(境内、舞台)の三要素で成り立っている。その中で豊前岩戸神楽の神楽舞については、詳細な調査・記録が行なわれ平成11年に福岡県重要伝統無形文化財に指定された。また地域内の神楽講の沿革や組織、演目、活動状況や衣装等について実態調査が行われている。¹⁾中には、廃絶された講も少なくないが、近年復活したものや子どもを中心に再編されたものなども含まれている。

その舞台に関しては、神楽奉納が途絶え、放置されたものや増改築され集落公民館と兼用されているものなども見られるが、多くは建立時の姿を留めている。伝統芸能としての神楽舞いに注目が集まりつつある中で、この神楽舞台の平面形や規模など建築的な実態は全く等閑視されている。

本研究では、この京築地区の神楽舞台を中心に、形態・特徴を明らかにすることを目的とする。他の2つの要素、神楽講と見物人・世話人つまり地域住民の生活・組織との相関等から神楽に焦点を当てた地域再生の手がかりを得ることも目指したい。

調査対象地域が広域で、かつ舞台数も多いことから、本報告と続報では、これまでの神楽舞台の調査・研究での成果をおさえたうえで、京築地域の南に位置する豊前市を中心に、北端の荏田町も加えた2つの行政区域における神楽舞台の配置、平面構成、規模等につい

て考察する。

1. 神楽舞台についての既往研究

神楽が奉納される場については、露天、地面に敷いた板敷、石壇状の石舞台、仮設舞台、住宅の座敷と神社の拝殿、神楽殿(舞殿)などが見い出せる。この中で、神楽舞台としての拝殿・神楽殿に関する研究には大きく2つの系統がみられる。

ひとつは、神楽研究の中の一部として扱ったものである。「神楽研究」²⁾は、「舞台の完成は近世に至ってみられる」(p.190)とし、その配置と舞台形式について触れている。舞台の配置形式は「社に対する位置」と「楽屋・橋懸り・舞台との4つの関係」及び「見物の位置」とで6つに分類できるとしている(p.191)。また、神楽殿には「四方吹抜けと三方吹抜けとの二つの形式があつて…前者を舞殿と称し、後者を神楽殿とするのが今日の一般」(p.199)としている。昭和30、40年代を中心に中国、四国、九州を調査した「西日本諸神楽の研究」³⁾では、里神楽の発展過程と神楽の内容(形態)による神楽組(講)の分布を明らかにすることに主眼を置いたものであるが、その中で、神楽のない筑後と肥前の東南部を除く九州の神楽約250講を10の地域・種別に分類している。そこでは、神楽の場(舞所)が神社の拝殿あるいは神楽殿を主とするものが大半(7地域・種別)で、「日向の神楽」と一括した神楽のうち、高千穂・推葉は神宿の座敷、「米良・高鍋・日南及び薩隅の神舞(かんまい)」は露天であるとしている。また、神楽舞いの範囲(方3尺、一間、三間など)に地域・種別での差異のあることを見い出している。そして「床の高い神楽殿を普通としているところは古くからいわゆる演劇風の神楽が発達し、一方今日なお露天無床の方式をとっているところは…神事であるという意識を強くもっている」(p.97)と総括的にとらえら

「野の舞台」³⁾も歌舞伎・人形舞台を主に考察されているが、「神楽殿はおそらく無蓋壇式の舞楽舞台に源を発する」とし、神社本殿との位置関係でその配置形式を6分類している (p. 100, 図 35)。この配置形式の模式図は本報告での3分類に包含される。他にも「農村舞台」に関する調査・研究報告は少なくないが、常設の神楽舞台を対象とするものはほとんど見い出せない。⁴⁾

地区面積約 565k m²、人口 19 万人ほどである。近代以前の京都・仲津（京都）と築城・上毛（築上）の 4 郡が行橋市・京都郡と豊前市・築上郡に編成されている（図 1-1）。南部の旧上毛郡、豊前市は 3 万人ほど、面積 111 k m²と広く求菩提山（782 m）、犬ヶ岳からの小河川筋の集落と周防灘に面する平野部とで構成されている。また京都郡荊田町は北九州市に接した人口

[illegible]

講は最低9名必要とされるが、豊前市の講は11～17名で構成され、多くは会社員・公務員・農業者で年齢層は30～60才台で高齢化しつつあるが、小中学生による子ども神楽部（9名中、小中学生の每人5人）

を併せもつ講もみられる。また苅田町には新たな神楽同好会も結成されている。

講と奉納する神社とは基本的には対応している（例外として畑地域の4社は2つの講が年によって奉納する）。活動中の豊前市の講は、主たる神社を含むその周辺の3及至10社で奉納を行う。したがって市域の神社群は、ほぼ7つの区域に線引きできる。

3. 豊前市・苅田町の神楽舞台

3.1. 概要と配置形式

豊前市と苅田町の神社数はそれぞれ76、35社で、神楽舞台を有するのは58、19社である。舞台のない豊前市の18社のうち、仮設舞台での奉納2社、雨天時は神殿、晴天時は露天奉納1社である。神楽舞台の建設年代は、棟札で明確になっているものもあり、ほぼ特定できるのは豊前市の13舞台である。江戸期8棟、明治期3棟、大正期1棟、昭和戦前1棟である。神楽舞台は、神楽奉納を拝殿で行うもの（拝殿式舞台）と拝殿以外の舞殿・神楽殿（神楽殿式舞台）に2分される（図1-2、1-3）。

この神楽舞台と本殿、楽屋との配置形式を既往研究を参照しつつ類形化したのが図1-4である。

まず拝殿式舞台は、本殿とのつながりから、2つに分けられる。ひとつは、本殿と連結している型、つまり、幣殿をはさんだものや一体となっているもの、あるいは、本殿と床面が連続しているものを（A：連結型）とする。これは本殿側から拝殿での神楽を見物できない形式である。他は本殿と別棟となっている型

（B：別棟型）である。次に楽屋との関係である。楽屋を舞台空間の一方を間仕切壁で区切った型（1. 付属型）と別棟になっていて橋懸りで連結されている型（2. 別棟型）及び、舞台平面に楽屋が画定されてなく楽屋棟も持たない型（3. なし）に区分できる。

舞台形式は、両地域とも神楽殿式は少なく、大半は拝殿式である。しかし、本殿と拝殿とのつながりは全く異なる。豊前市域でのそれは、「B. 本殿・拝殿別棟型」がやや多いのに対して苅田では、1例を除いて「A. 本殿・拝殿連結型」となっている。また楽屋形式も全く異なり、豊前市域では、「1. 付属型」が多く、次いで「2. 別棟型」も少なくなく、「3. 楽屋なし」は1例に過ぎないのに比し、苅田町では、逆に楽屋のない舞台が大勢を占めている。つまり両地域での特徴的な差異は、「本殿・拝殿が別棟になっていて、楽屋が拝殿の一隅を占めている形式」が豊前市では最も多いものの他の本殿・拝殿連結型、楽屋別棟型なども一定数み

舞台 楽屋	拝殿式舞台			計
	A. 本殿・拝殿連結型	B. 本殿・拝殿別棟型	C. 神楽殿式舞台	
1. 付属型	 (12・2)	 (10・1)	 (5・1)	(35・4)
2. 別棟型	 (10・1)	 (10・0)	 (1・0)	(21・1)
3. なし	 (1・13)	凡例： □：本殿 ■：神楽舞台 ■：楽屋 ■：拝殿等	 (0・1)	(1・14)
計	(23・16)	(28・1)	(6・2)	(57・19)

図1-4 神楽舞台の配置形式と舞台数（豊前市・苅田町）

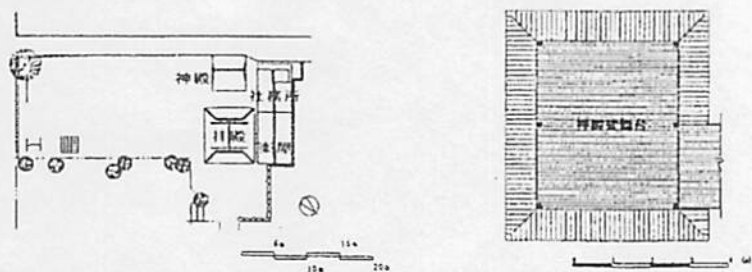


図1-2 拝殿式舞台（豊前市小石原、貴船神社）



図1-3 神楽殿式舞台（豊前市三毛門、春日神社）



られ多様である。これに対し、苅田町では対比的に「本殿・拝殿が連結していて、楽屋の区画がない形式」に集中している点にある。このことは、本殿と拝殿との接続の2つの形式が混在している豊前市と一形式だけに集中している苅田町との差異、及び楽屋空間の分化程度の違いという異なった2つの次元の違いとみてとれる。その背景は今後の課題である。

3.2. 神楽舞台・楽屋と神楽奉納

神楽舞台は数本の柱で支えられた開放的なものが大半であるが、平時は格子戸等で閉鎖されているものもみられる（豊前市9、苅田1）。柱寸法は120mm角から300mm角、多いのは150mm角前後であるが、丸柱のものも少数みられる。四方吹抜けの舞台から三方、二方、一方だけ吹抜けと多様であるが、四方から見物できる形式のものは見い出せない。

舞台の床高は、豊前では950mm程度のものが多く、苅田町では比較的低い。550mmから1,235mmと幅が大きい。

屋根形状は入母屋平入りが大半であるが、簡素な切妻のものや妻入りのものも見られる。床は畳敷き1例を除いて、他は板敷きであり、畳敷きの舞台も奉納時には畳上げをする。舞台方位は南・東が多いが北西・北東のものもあり一様でない。

次に楽屋について。楽屋は謡の舞人・囃子方の控えと毛頭・面・烏帽子などの被物や衣装、幣・扇・太刀などの持物の置き場を兼ねている。楽屋の外周は壁面となっているものが大半であるが、1面あるいは2面を開放している例もみられる。また楽屋の中にいろりを切ったものや、さらに区画して倉庫を設けているもの、出入口を設けているものもみられる。

付属型では柱間1間分を舞台との隔壁にして、他の1間が開放されて、舞台と往来できる形式のものが多く、全面（2間あるいは3間）を開放しているものも少なくない。別棟型では橋懸りに出入口がついている。

神楽奉納時、舞台上には、楽屋との仕切壁側あるいは本殿側に囃子方3人が着座して奉楽し、舞人は演目によるが、舞台のほぼ全面から拝殿前面の露天にも広がる。「湯立て」など露天に広がる演目では縄で舞う場を区切っている。見物人は三方向、二方向、一方向

の露天あるいは舞台の濡れ縁や舞台上の隅に着座して見物する。演目によっては舞いの中で蹴りを受ける。暗くなると焚火を囲みながら見物する。

神楽演目は33番あるが、講によってはいくつかを欠いている。神楽奉納は最初に舞われる儀式的な式神楽だけを氏子の共通費から、他の奉納神楽は氏子各戸毎の請願による演目を舞うという形が多く、豊前市では2000年から岩戸神楽組合で、演目による奉納料を講によらず一律に定めている。奉納演目の多い神社では、午前中から翌未明まで奉納された後、氏子と講（神楽社）の人との直会がもたれる。

まとめ

豊前市を主対象に苅田町も加えて、福岡県京築地区における農村舞台の一種である神楽舞台をとりあげ、その第一報として、これまでの調査・研究成果を基に、神楽講や舞台配置形式などについての概略を示した。

旧京都郡に位置する苅田町と旧上毛・築上郡の豊前市の神楽舞台の配置形式は、まったく異なっていて、神楽としては「豊前岩戸神楽」の地区として一括されているものの、その舞台は一様でないことが明らかとなった。

すでにいくつかの他町村での神楽舞台調査を進めているが、京築全域での差異の流れ、特徴が見え出した程度である。神社境内も含めて地域の環境・生活資産とする視点や地域社会・組織との関わりにも注目して考察を進めたい。なお調査には、元久留米工業大学院生の河内正一・嶋田瑠彦両氏の協力を得た。謝して記す。

注

- 1) 神楽の里づくり構想推進協議会・京築地区神楽調査委員会、「豊前岩戸神楽—福岡県京築地域神楽講の実態調査」、1996
- 2) 西角井正徳、「神楽研究」、任生書院、1934
- 3) 石塚尊俊、「西日本諸神楽の研究」、慶友社、1979
- 4) 松崎茂、「日本農村舞台の研究」、同工学博士論文刊行会、1967
- 5) 竹内芳太郎、「野の舞台」、ドメス出版、1981
- 6) 研究の流れには、無論、日本建築史研究が位置づけられる。西和央、「建築史研究の新視点二」、中央公論美術出版、2000では、仮設舞台の考察が加えられている（pp.105-138）。阿波のまちなみ研究会、「阿波の農村舞台」、平成4年。川上光洋、川向正人、「阿波の農村舞台における空間転換とその仕掛けに関する研究」、日本建築学会計画系論文集、2001年6月。角田一朗、「農村舞台の総合的研究、歌舞伎、人形芝居を中心に」、桜楓社、1971等。
- 7) 豊前岩戸神楽の歴史・概要は主に下記の文献によった。豊前市中央編纂委員会編、「豊前市史下巻」、豊前市、1991及び前掲注1）。
- 8) ヒヤリングでは既に廃棄も途絶えているが、今年からひとつの神楽講が復活中である。また神楽の里づくり構想推進協議会、「京築お神楽百科」には、創作神楽の同好会が97年に活動を始め町内の1社で奉納しているとしている（p.6）。

*1 東和大学

教授・工修

*2 福岡大学

教授・工博

*3 西日本工業大学

研究生

*4 同

助教授・博士（学術）

Prof., Tohwa University, Ms. Eng

Prof., Fukuoka University, Dr. Eng

Researcher, Nishinippon Institute of Technology

Assoc. Prof., Nishinippon Institute of Technology, Ph. D.

福岡県京築地区の神楽舞台の研究

その2 豊前市と苅田町の神楽舞台の平面構成

正会員○柴田加奈子^{*1} 同 岡田知子^{*2} 同 河野泰治^{*3} 同 井上英孝^{*4}

5. 建築計画 2. 各種建築物・地域施設

神楽舞台、平面構成、豊前市、苅田町

はじめに

本稿は前稿に続き、神楽舞台の平面構成について豊前市と苅田町の比較を通してその特徴を考察する。

1. 調査の方法

地図と既存資料により現存する全ての神社を対象に以下の手順で調査を実施した。

- ・神楽舞台の有無をヒアリングで確認
- ・神楽舞台が存在するもの全てについて実測調査
- ・神楽舞台での神楽奉納時の観察調査

なお、実測調査を実施した神社は表2-1の一覧にまとめている。

表2-1. 調査舞台一覧

2. 神楽舞台の平面構成

神楽舞台の面積、間口奥行の寸法、間数、大床の有無について豊前市と苅田町を比較してみる。前稿で分類した図1-4のように神楽舞台のうち楽屋が押殿の一隅を占める付属式のタイプがあるのでここでは神楽舞台のみと楽屋を含む神楽舞台全体に分けて比較分析している。なお、別棟型と楽屋なしのタイプは舞台のみと舞台全体とが同じになる。

2.1. 舞台面積

図2-1は神楽舞台全体、図2-2は神楽舞台のみの面積の割合を比較したものである。図のように苅田の方が全体に規模が大きい。また、舞台全体では豊前は20

豊前												苅田											
NO.	神社名	舞台全体面積		舞台のみ面積		NO.	神社名	舞台全体面積		舞台のみ面積		NO.	神社名	舞台全体面積		舞台のみ面積		NO.	神社名	舞台全体面積		舞台のみ面積	
		間口	奥行	間口	奥行			間口	奥行	間口	奥行			間口	奥行	間口	奥行			間口	奥行	間口	奥行
1	鹿島神社	3	2	3	2	20	須佐神社	5	2	1	2	39	宗道神社	5	4	4	2	1	戸取神社	3	3	3	3
2	四公神社	4	2	3	2	21	大相神社	4	2	2	2	40	貴船神社	3	3	3	3	2	宇原神社	3	3	3	3
3	菅原神社	4	2	2	2	22	清水神社	5	2	3	2	41	道指神社	5	3	3	2	3	白庭神社	3	3	2	3
4	宇良神社	3	2	3	2	23	西川神社	3	4	3	2	42	鳴火ノ瀬神社	3	3	3	2	4	塩釜神社	3	3	3	3
5	足切神社	3	3	3	2	24	春日神社	3	2	3	2	43	須佐神社	3	1	1	1	5	大原ノ瀬神社	3	3	3	3
6	金刀比羅神社	4	2	2	2	25	貴船神社	3	2	3	2	44	合ノ瀬神社	3	3	3	3	6	清地神社	4	3	4	3
7	天香山神社	2	4	2	2	26	貴船神社	4	2	2	2	45	貴船神社	3	3	3	2	7	天満宮	5	3	5	3
8	貴船神社	4	3	3	2	27	春日神社	3	2	3	2	46	貴船神社	5	3	3	2	8	菅原神社	3	3	3	3
9	田比野神社	4	3	3	3	28	石清水ノ瀬神社	1	1	1	1	47	貴船神社	5	2	2	1	9	貴船貴布禰神社	3	2	3	2
10	七社神社	4	2	3	2	29	貴船神社	1	2	1	2	48	大山福神社	3	2	2	2	10	菅原神社	3	2	3	2
11	角田ノ瀬神社	3	3	3	3	30	事代主神社	3	2	3	2	49	貴船神社	6	3	3	2	11	錦地区貴船神社	3	3	3	3
12	雲見神社	4	3	3	3	31	乙女ノ瀬神社	4	3	3	3	50	貴船神社	3	3	3	2	12	國崎ノ瀬宮	3	3	3	3
13	道指神社	5	1	2	1	32	貴船神社	3	2	2	2	51	日吉神社	3	3	3	2	13	貴船神社	3	3	3	3
14	猿勇神社	4	2	2	2	33	千束ノ瀬神社	7	3	7	3	52	大山福神社	5	3	3	2	14	貴船神社	3	3	3	3
15	水神社	4	2	4	2	34	貴船神社	4	2	3	2	53	七社神社	3	3	3	2	15	稲荷宮	3	3	3	3
16	八瀬神社	5	2	2	2	35	大山福神社	3	1	2	1	54	須佐神社	4	3	3	2	16	國崎ノ瀬神社	4	3	3	3
17	大森神社	3	2	1	2	36	大西神社	5	2	3	2	55	大山福神社	3	2	2	2	17	須佐神社	6	3	5	3
18	四公神社	5	2	2	2	37	貴船神社	3	2	3	2	56	須佐神社	3	3	3	2	18	天彦神社	3	2	3	2
19	大森神社	4	2	3	2	38	梁山ノ瀬神社	5	3	3	2	57	大山福神社	3	3	3	2	19	白山彦神社	3	4	3	2

A Study on Kagura-Stages in Keichiku, Fukuoka Prefecture

Part 2 Plan Composition of Kagura-Stages in Buzenn-City and Kanda-Town

INOUE Hidetaka, KAWANO Yasuharu, SHIBATA Kanako and OKADA Tomoko

～50㎡までに84%が、苅田は30～60㎡までに68%が集中している。舞台のみでは豊前は10～30㎡までに79%が、苅田は30～50㎡までに58%が集中しており、それぞれ10～20㎡程度の規模の差がみられる。

2.2. 間口と奥行の大きさ

舞台の間口と奥行は本殿に対しての関係で、向かって正面側を間口とする。図2-3～図2-6は豊前、苅田別に舞台全体と舞台のみについて間口と奥行の大きさの関係をグラフ化したものである。まず、豊前、苅田とも神楽舞台は間口が奥行に対して大きいものが主流であることがわかる。さらに詳細にみると、間口と奥行が同寸法のものが11件みられるが、その全てが豊前の舞台のみの場合で配置形式は楽屋付属型である。奥行が間口より大きいものは豊前で6件、苅田で1件みられ、いずれも神楽殿式か楽屋別棟型である。

また、奥行きは4000～5000mm前後に集中しているのに対して間口は4000～10000mmと散らばっており幅がある。豊前より苅田の方が全体として間口は大きく、規模の差異に反映している。舞台のみの場合について詳しくみると、豊前の奥行は9割近くが4000～

5000mm前後である。特に3960(13尺)が7件、その前後の±20を合わせると14件となり、1/4にあたる。また、間口は8割近くが4000～6000mm前後である。苅田では奥行4000～5000mm前後に8割、間口7000～10000mm前後に8割近くが集中している。

2.3. 間口と奥行の柱間数

表2-2～表2-5は間口と奥行の柱間数の組み合わせを舞台全体と舞台のみの別に豊前と苅田ごとにそれぞれ示したものである。なお、表中の丸の大きさはその割合の大きさを示している。

豊前では舞台のみをみると間口3間、奥行2間が5割を占め、最も多い組み合わせである。舞台全体でみると楽屋付属型のタイプが65%を占めるため間口4間以上のものが多くなり5割を占めるが、奥行は7割が2間である。一方、苅田は楽屋が付属しているタイプが少ないため舞台のみと舞台全体の傾向はほぼ同じで、間口3間、奥行3間の組み合わせが最も多く、6割近くを占める。

	豊前		苅田	
	舞台全体	舞台のみ	舞台全体	舞台のみ
間口>奥行	51	43	18	18
間口=奥行	0	11	0	0
間口<奥行	6	3	1	1
計	57	57	19	19

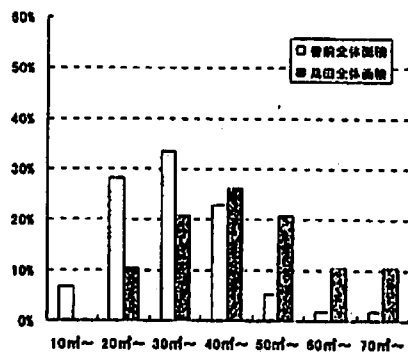


図2-1. 神楽舞台全体の面積別割合

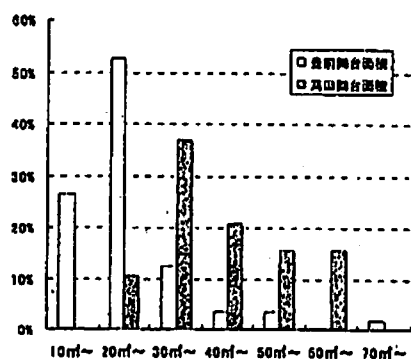


図2-2. 神楽舞台のみの面積別割合

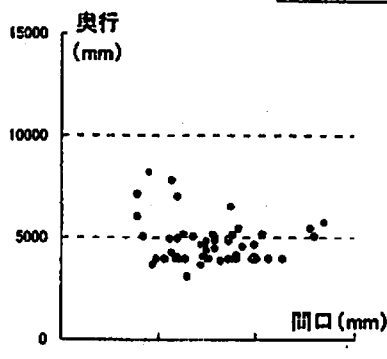


図2-3. 間口奥行の相関
(豊前・神楽舞台全体)

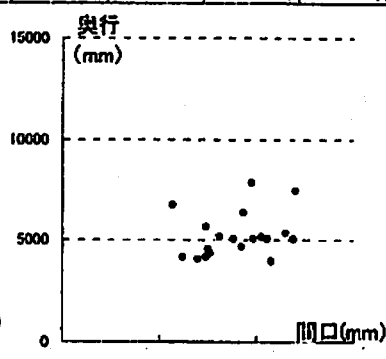


図2-5. 間口奥行の相関
(苅田・神楽舞台全体)

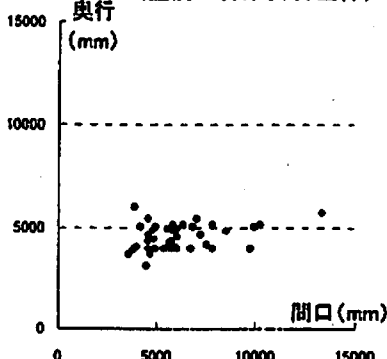


図2-4. 間口奥行の相関
(豊前・神楽舞台のみ)

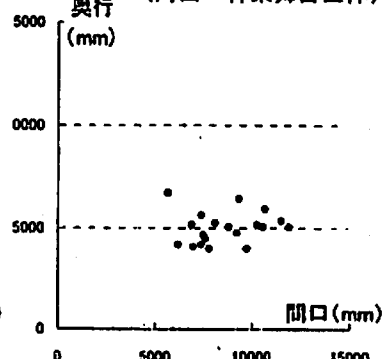


図2-6. 間口奥行の相関
(苅田・神楽舞台のみ)

2.4. 大床（濡れ縁）の有無

豊前で大床のある舞台は30件で半数以上を占める。それに対して荊田では大床のあるものは1件のみである。

2.5. 向拝の有無

豊前では向拝のあるタイプは10件のみである。それに対して荊田は17件で、ほとんどの舞台に向拝があるといえる。

以上、神楽舞台のみについてその特徴をまとめると以下ようになる。

- ・豊前、荊田とも奥行より間口の大きいものが主流である。

- ・豊前は間口3間奥行2間、荊田は間口3間奥行3間がそれぞれ最も多い。

- ・奥行は豊前、荊田とも4000～5000mmだが、間口は4000～10000mmと幅があり、荊田の方が豊前より大きい。

- ・面積は荊田の方が豊前より10～20㎡程度大きい。

- ・豊前は楽屋を有しているが、荊田では楽屋のないものが多い。

以上の分析をふまえ典型的な平面型の事例を示したものが図2-7、図2-8である。図2-7の豊前の事例は間口3間奥行3間の神楽舞台に楽屋が付属している。図2-8の荊田の事例は楽屋なしの間口3間奥行3間で

大床のないタイプである。

3. 舞台での神楽奉納の様子

図2-9は舞台がどのように使われるか、奉納時の様子を示したものである。いずれも豊前の例である。神楽奉納は舞台の規模、神楽の演目によってその形式は多様である。奉納場所はNO.11やNO.52のように拝殿の舞台だけを使う場合や、NO.30のように演目によっては境内に縄を張って空間を仕切った野外でも執りおこなわれる場合がある。お囃子は囃子座を有していない神社では舞方と同じ舞台上の楽屋に近い場所に着座している。舞台の多くは、本殿に向かう幣殿以外は平時から開放されている。しかし、NO.30のように平時は建具で閉鎖されていて神楽などの祭事の時には開放されるようになっているケースもみられる。ここでは建具は葎戸になっているが引き違いの場合もあり、簡単に解放できるようである。使い方をみると囃子方の座る一辺を残し3方向に開放される。奉納時は集落の人々はもちろん誰でも見学ができる。その場合、NO.11のように舞台そのものがある程度広い場合やNO.52のように大床（濡れ縁）がある場合は見物人も舞方と同じ舞台に着座して見ることができる。NO.30のように舞台の面積が小規模であったり大床もない場合は舞台の周囲で立ち見となる。

表2-2. 間口奥行の柱間数
(豊前・神楽舞台全体)

間口	1	2	3	4	5	6	7	
奥行	1	2	2	2	5			
2	1	17	10	1	40			
3	4	4	1	9				
4	1	2		3				
	2	1	25	15	12	1	1	

表2-4. 間口奥行の柱間数
(荊田・神楽舞台全体)

間口	1	2	3	4	5	6	7	
奥行	1							
2		3					3	
3			2	1	1		15	
4			1				1	
			15	2	1	1		

表2-3. 間口奥行の柱間数
(豊前・神楽舞台のみ)

間口	1	2	3	4	5	6	7	
奥行	1	2	3					5
2	3	1	2	2			45	
3			6				7	
4								
	5	14	35	2			1	

表2-5. 間口奥行の柱間数
(荊田・神楽舞台のみ)

間口	1	2	3	4	5	6	7	
奥行	1							
2			4				4	
3		1	1	1	2		15	
4								
		1	15	1	2			

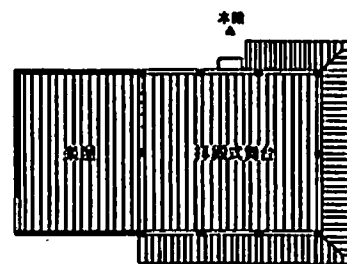


図2-7. 豊前神楽舞台典型的平面図

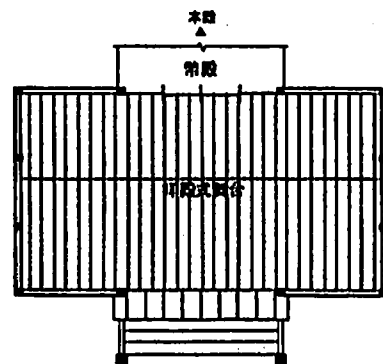


図2-8. 荊田神楽舞台典型的平面図

楽屋は舞台の一部を仕切ったものや別棟式のものの、幣殿を利用する場合がある。NO.52 のように暖をとるための火鉢や囲炉裏がある楽屋もある。多くの場合、演目が行われている様子がうかがえる場所にあり、舞方、囃子方が休憩したり着替えたりする場所として使われる。面積は6㎡～24㎡と幅があるが10～14㎡（6帖～8帖）の程度の広さが多い。

おわりに

本研究は京築地区における神楽舞台の特徴を明らかにすることを目的としているが、今回は便宜的に豊前市と荇田町という現行行政区の2つの市町を取り出して神楽舞台の平面についてその面積、間口奥行、柱間数などから分析的に考察し、以下のことがわかった。

- ・豊前市と荇田町のそれぞれの行政区の中においても舞台平面の形式と構成は多様である。
- ・しかしながら豊前市と荇田町の神楽舞台には共通点も見いだされる。一方でいくつかの違いが見られ、行政区ごとに特色がある。
- ・京築地区の神楽舞台は領域ごとに特色があり一様ではないと予想される。

今後、京築を中心に事例を増やしその特徴を明らかにしたい。

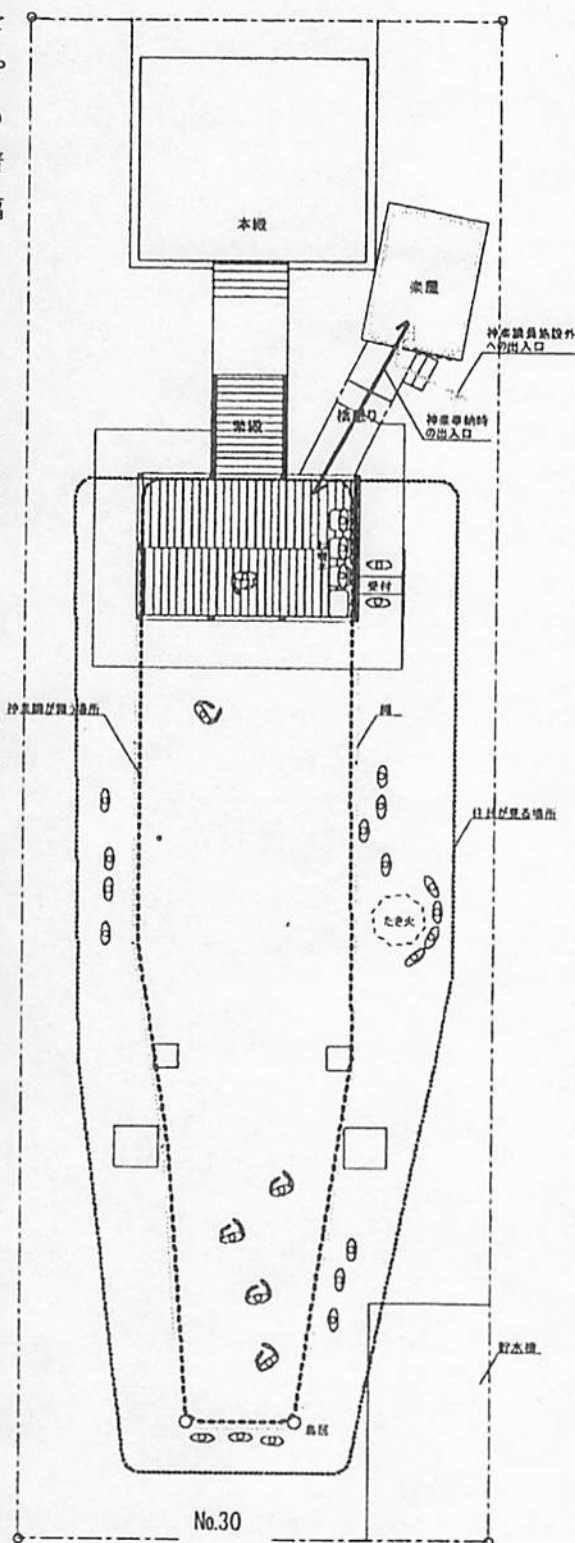
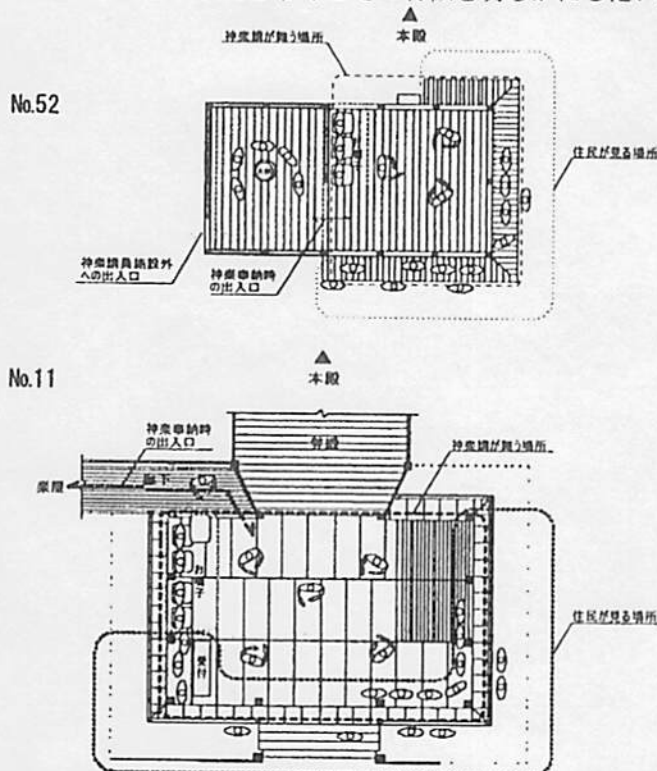


図2-9. 神楽奉納時の使われかた

*1 西日本工業大学研究生
 *2 西日本工業大学助教授・博士（学術）
 *3 福岡大学教授・工博
 *4 東和大学教授・工修

Researcher, Nishinippon Institute of Technology,
 Assoc. Prof., Nishinippon Institute of Technology, Ph.D.
 Prof., Fukuoka University, Dr. Eng.
 Prof., Tohwa University, M. Eng.